

静岡県の産業・金融面の概要

■静岡県の全国での位置付けと産業構造の特色

静岡県は、人口や総生産額などの経済関連指標が、全国シェア3%、同順位第10位を占めることが多いため、「3%・10位の経済圏」と称されることがあります。特徴的なのは、第2次産業のウェイトが42%と全国平均（26%）を大幅に上回ることで、「ものづくり県」としては全国有数です。

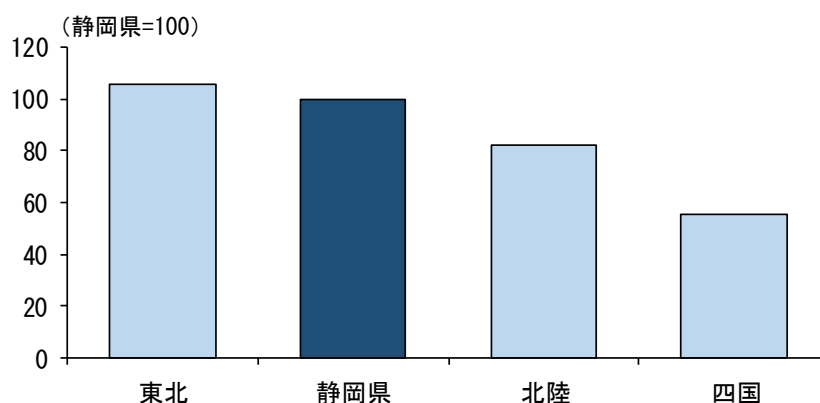
▽県内主要経済指標

項目	実数(調査時点)		全国シェア(%)	全国順位(位)
面積	7,777 km ²	(2022年7月)	2.1	13
人口	3,608 千人	(2021年10月)	2.9	10
県内総生産(名目) [静岡県ウェイト<全国ウェイト>(%)]	178,662 億円 [100<100>]	(2019年度)	3.1	10
第1次産業	1,237 億円 [0.7<0.9>]		2.3	15
第2次産業	75,379 億円 [42.2<25.6>]		5.1	5
第3次産業	101,394 億円 [56.8<73.1>]		2.4	10
一人当たり県民所得	3,406 千円	(2019年度)	—	3
製造品出荷額等 (従業者4人以上の事業所)	171,539 億円	(2019年)	5.3	3
農業産出額	2,084 億円	(2021年)	2.4	15
林業産出額	137 億円	(2021年)	2.8	9
海面漁業・養殖業産出額	458 億円	(2020年)	3.8	7

資料出所：国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「人口推計」、内閣府「県民経済計算」、経済産業省「工業統計調査」、農林水産省「生産農業所得統計」、「林業産出額」、「漁業産出額」

製造業についてやや詳しくみると、静岡県の製造品出荷額等は、愛知県、神奈川県に次いで全国第3位で、その規模は、北陸4県や四国4県を大きく上回り、東北6県に迫る水準です。また、輸送用機械をはじめ食料品、電気機械、化学、楽器等、多様な産業が集積していることから、当県は、しばしば「産業のデパート」とも称されてきました。全国トップクラスのシェアを誇る財も、自動車部品や二輪車、茶系飲料、ツナ缶、化粧品、医療機器、ピアノ、プラモデルなど実に多彩です。

▽製造品出荷額等の地域比較（2019年）



資料出所：経済産業省「工業統計調査」

（注1）従業者4人以上の事業所

（注2）北陸は富山、石川、福井、新潟の4県

製造業が発展した背景としては、気候温暖で水資源が豊富であること、東京・名古屋の大消費地に挟まれていること、中西部を中心にものづくりの伝統があること、さらには、東名高速道路や国際貿易港である清水港等、交通インフラが発達していることが挙げられます。そうした諸条件が重なって、地場産業の発展に加え、今日に至るまで東京や大阪等に本社を持つ企業の工場が多数進出してきました。

▽都道府県別年間工場立地件数の推移

	2017年		2018年		2019年		2020年		2021年	
1位	静岡	97件	愛知	82件	愛知	80件	茨城	65件	愛知	60件
2位	群馬	62件	茨城、群馬	69件	静岡	78件	愛知	60件	茨城	51件
3位	兵庫	59件	—	—	茨城	66件	静岡	54件	岐阜	50件
4位	愛知	51件	静岡	67件	群馬	59件	群馬	52件	群馬、静岡	49件
5位	茨城	46件	兵庫	56件	岐阜	53件	岐阜	46件	—	—

資料出所：経済産業省「工場立地動向調査」

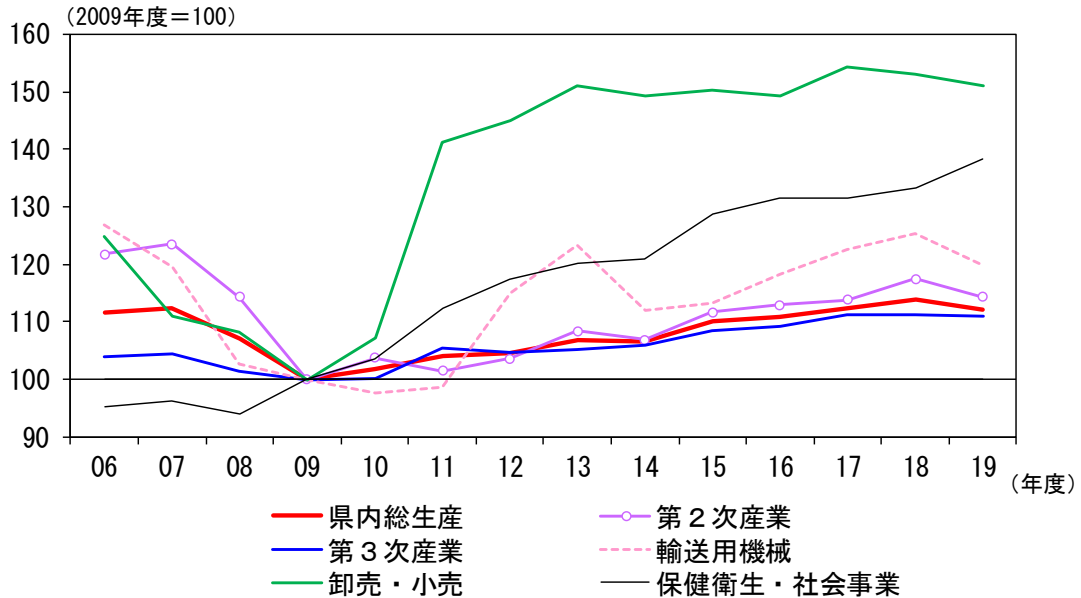
この間、農林水産業も、恵まれた自然環境を背景に様々な農林水産物の産地となっています。特に、茶、みかん、メロン、かつお、まぐろ、さくらえび、わさび等が有名です。他方、東部を中心に、富士山や伊豆半島など内外に名高い観光資源を有しており、旅館・ホテルの営業施設は東京都、北海道に次いで全国第3位であるなど、「観光県」としての一面もあります。

■静岡県経済の近年の構造変化

静岡県は、上記の通り、主として「ものづくり県」として経済発展を遂げてきました。しかし、2008年のいわゆる「リーマン・ショック」以降は、先進国経済の低迷、中国等新興国の経済成長、さらには為替円高の進行もあって、輸送用機械等の輸出企業において、生産拠点の海外移転が進みました。一方、非製造業では、大型スーパーやドラッグストア

等の小売業が、郊外への新規出店等により業容を拡大したほか、人口高齢化を背景に医療・介護サービスも拡大しました。

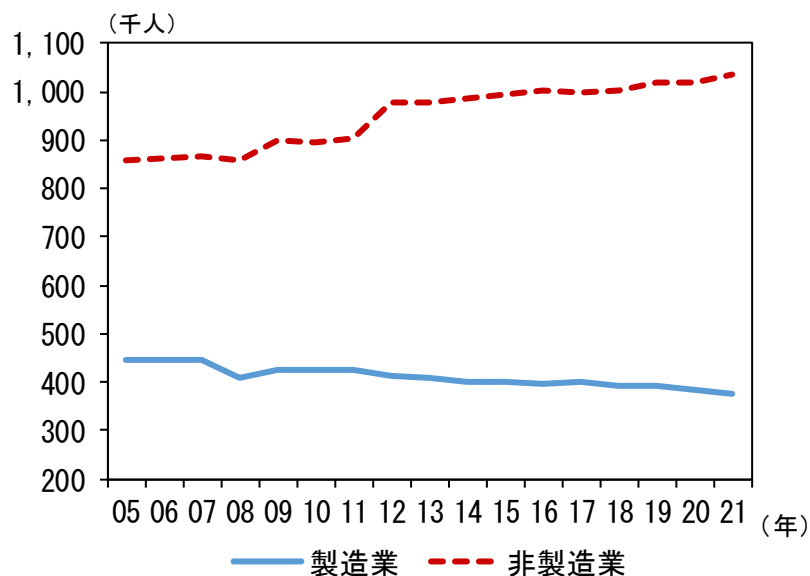
▽県内総生産の推移



資料出所：内閣府「県民経済計算」

こうした産業構造の変化を反映して、静岡県は雇用者数は、製造業で減少する一方で、非製造業は増加傾向を辿っています。製造業の雇用者数の減少には、輸出企業における生産拠点の海外移転のほか、生産性向上を目的とした省力化・合理化投資も影響していると考えられます。この間、賃金面（一人当たり名目賃金）をみると、全体的に伸び悩みが続いています。

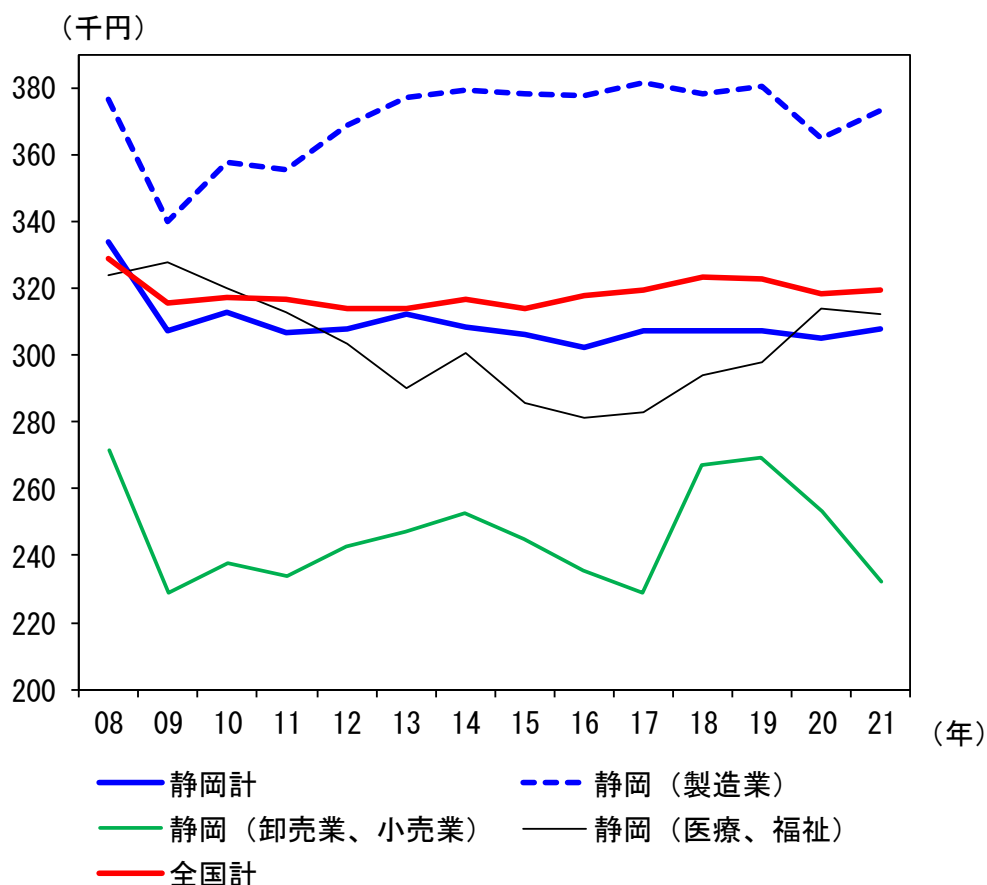
▽県内常用雇用者数の推移



資料出所：静岡県「毎月勤労統計調査」

(注) 事業所規模5人以上

▽県内一人当たり名目賃金の推移



資料出所：厚生労働省「毎月勤労統計調査」、静岡県「毎月勤労統計調査」
(注) 事業所規模5人以上

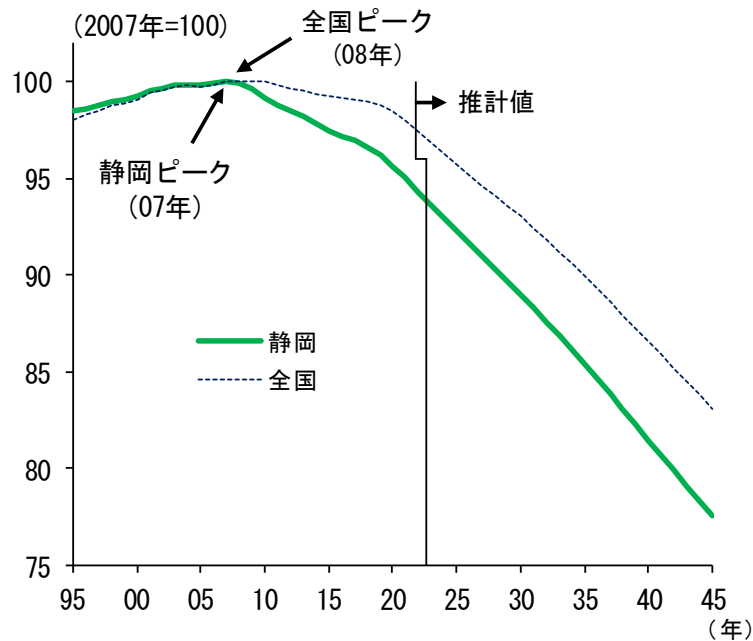
■静岡県経済の現状と課題

県内総生産額は、2019年までには「リーマン・ショック」後の落ち込みを回復しました。もっとも、2020年以降深刻化した新型コロナウイルス感染症拡大により、県経済は再び大きな打撃を受け、それに2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻が追い打ちを掛けました。最近では、国の内外で経済活動と新型コロナウイルス対策の両立を目指す動きが広がりつつあること等から、県経済も持ち直しの動きが続いています。

ただ、静岡県経済の持続的な発展のためには、幾つかの構造的な問題への対応が求められています。

その第一は、人材確保です。人口減少が続く中で、幅広い業種の製造・営業現場、研究開発の各層で担い手不足が起きています。これに対しては、賃金の引上げや職場環境の改善、働き甲斐の向上等が課題となっています。また、企業経営者の後継者不足に対しては、国や自治体、金融機関等による人材紹介が進められています。

▽人口の推移と予測



資料出所：総務省「人口推計」、静岡県「静岡県の推計人口」
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

(注1) 補間補正人口

(注2) 静岡県の2023年以降、全国の2022年以降は推計値

第二は、販路拡大です。すでに輸送用機械等一部の製造業は海外に商圏を拡大していますが、それ以外の多くの企業は内需向けです。国内市場が縮小・成熟化する中で、自社の財・サービスのさらなる差別化や輸出への取組みが課題となっています。

第三は、環境問題への対応です。この点については、脱炭素化に向けた様々な取組みが進められていますが、当県の主要産業のひとつである輸送用機械では、脱内燃機関や新事業の創出が大きな経営課題となっています。

第四は、生産性の向上です。中小零細企業や労働集約的な産業を中心に、デジタル技術を活用して事務作業を効率化するほか、経営や製造・営業現場のデータをタイムリーに「見える化」して、それを事業の運営に活用すること等が課題となっています。

■地域別の特徴

(地域別の特徴)

静岡県は35市町(2022年7月現在)からなり、地域別には、富士川と大井川をおおよそ境にして東部・中部・西部の3つの地域に区分されます。この3つの地域は、風土や気質、歴史、産業様々な面で、それぞれ異なった特色があると言われています。

東部(旧伊豆国^{いずのくに})は、鎌倉時代に北条氏の本拠となり、その後は天領が多かったこともあって、江戸との繋がりが強かったようです。中部(旧駿河国^{するがのくに})は、徳川家康公ゆかりの地として、独自に発展しました。また、西部(旧遠江国^{とおとうみのくに})は、江戸時代に西国大名の江戸侵攻に備えた防衛上の理由から、大井川に橋が架けられなかったこともあって、大井川以東の人々との交流はあまり盛んではなかったようです。

このような経緯から、静岡県では、江戸時代までに東部・中部・西部それぞれで経済圏が形成され、明治時代の廃藩置県を経て府県制の公布により統合されたという歴史的経緯があります。今日でも、上記3地域の人口や経済規模は概ね均衡しており、静岡県の経済社会風土の多様性を生む源となっています。

▽地域別の人口・総生産・一人当たり市町民所得

	東部	中部	西部
人口(千人)	1,150 <32.1>	1,129 <31.5>	1,301 <36.3>
総生産(億円)	53,220 <29.8>	59,347 <33.2>	66,095 <37.0>
一人当たり市町民所得(千円)	3,331	3,493	3,435

資料出所：静岡県「静岡県人口推計」「しずおかけんの地域経済計算」

(注1) 人口と総生産の<>内はウェイト

(注2) 人口は2022年11月現在、総生産と一人当たり市町民所得は2019年度

(注3) 一人当たり市町民所得は市町民所得(雇用者報酬、財産所得及び企業所得の合計)を人口(2019年10月現在)で除したもの

(東部)

伊豆半島は、海浜の景観と豊かな温泉資源に恵まれているほか、首都圏に近いという立地条件もあって、熱海、伊東、下田などを中心とした全国有数の観光地帯となっています。また、御殿場、裾野、三島、沼津といった地域には、首都圏からの交通アクセスが良いことや地下水を豊富に利用できることなどから、大手メーカーの工場が立地しています。富士地域は、富士山の豊富な水源をもとに製紙・化学工業が発達し、パルプ・紙・紙加工品の出荷額は全国屈指となっています。また、県東部では、近年、医療・健康産業の集積が進み、医薬品や医療機器の出荷額は全国でもトップクラスとなっています。

(中部)

県都静岡市は、行政、商業都市であるほか、家具、雑具などの伝統産業も集積しています。清水港は、県下最大の輸出入額を誇る国際貿易港として発展し、物流拠点が集積しているほか、焼津港は、かつお、まぐろの水揚げ基地で水産加工業も盛んです。遠洋漁業では、まぐろやかつおの漁獲量が全国トップクラスを誇り、これを利用した缶詰の生産量も全国一となっているほか、沿岸漁業では、しらす漁や国内では駿河湾だけでしか獲れない桜えび漁も盛んなことから、食品加工業の立地もみられます。また、牧之原台地はお茶の特産地として有名です。

(西部)

浜松市を中心とする県西部は、自動車・同部品、二輪車、楽器を中心とする工業地域です。現在でも、県西部は、輸送用機械、楽器の2大産業に加え、エレクトロニクスや生産用機械などの機械産業の集積が進み、わが国有数の工業地域を形成しています。他方、温暖な気候を活かしたメロンやみかん、野菜などの農作物栽培のほか、浜名湖でのカキ、のり、うなぎ、スッポンの養殖など、第1次産業も盛んな地域です。

■主要な製造業の紹介

県内の製造品出荷額等をみると、自動車、二輪車などの輸送用機械器具が 25.0%を占め、次いで、電気機械器具、化学工業が続いています。全国順位をみると、飲料・たばこ・飼料、木材・木製品、パルプ・紙・紙加工品は全国第1位となっており、電気機械器具、輸送用機械器具などの多くの業種で10位以内にランキングされています。

▽県内業種別製造品出荷額等（2019年）

産業中分類	出荷額等(億円)	構成比(%)	全国シェア(%)	全国順位(位)
食料品	13,698	8.0	4.6	8
飲料・たばこ・飼料	9,654	5.6	10.1	1
繊維工業	1,108	0.6	3.0	11
木材・木製品	2,107	1.2	7.5	1
家具・装備品	1,015	0.6	5.1	6
パルプ・紙・紙加工品	8,709	5.1	11.3	1
印刷・同関連業	1,498	0.9	3.1	8
化学工業	19,022	11.1	6.5	5
石油製品・石炭製品	288	0.2	0.2	19
プラスチック製品	7,559	4.4	5.8	4
ゴム製品	1,915	1.1	5.7	5
なめし革・同製品・毛皮	77	0.0	2.4	13
窯業・土石製品	1,578	0.9	2.1	20
鉄鋼業	2,179	1.3	1.2	19
非鉄金属	5,054	2.9	5.3	7
金属製品	5,819	3.4	3.6	8
はん用機械器具	3,240	1.9	2.7	15
生産用機械器具	8,538	5.0	4.1	7
業務用機械器具	2,602	1.5	3.9	12
電子部品・デバイス・電子回路	3,232	1.9	2.3	22
電気機械器具	25,066	14.6	13.8	2
情報通信機械器具	2,763	1.6	4.1	8
輸送用機械器具	42,841	25.0	6.3	2
その他	1,968	1.1	4.4	7
製造業合計	171,539	100.0	5.3	3

資料出所：経済産業省「工業統計調査（従業者4人以上の事業所）」

(1) 自動車・同部品

軽自動車の国内販売トップクラスのメーカーが立地しているほか、新東名高速道路、東名高速道路など交通の便に恵まれていることもあって、各完成車メーカーとの取引を行う部品メーカーが東西に亘って集積しており、当県のリーディング産業となっています。輸送用機械器具の製造品出荷額等は、全国の6.3%を占めており、愛知県(39.2%)に次いで第2位の水準にあります。

当業界は、海外需要の拡大に加え、2008年のグローバル金融危機やその後の歴史的円高の影響もあって、生産拠点の海外シフトが進展している典型であり、最近では、国内拠点の高付加価値化や、EV(電気自動車)や自動運転などの次世代自動車、さらには脱炭素化目標への対応が課題となっています。

(2) 二輪車・同部品

静岡県は、原動機付自転車(オートバイ)発祥の地であり、現在でも、国内二輪車メーカー4社のうち、2社の本社が県西部に立地し、関連企業も浜松市を中心に多数集積しています。なお、二輪車・原動機付自転車の輸出額は全国トップです。

当業界では、アジア新興国の発展が顕著となった2000年代初頭から、現地生産化が進展してきました。現在、国内は、研究・開発および先進国向けの高付加価値製品の輸出拠点となっています。

(3) 電気機械

静岡県には、県外大手セットメーカーなどの主力工場を中心として、関連の中小電気・電子部品メーカーなどが多数集積しています。生産品目も、エアコン、冷蔵庫、洗濯機といった白物家電から半導体などIT関連製品まで多岐に亘っています。また、当県は自動車産業の一大集積地であることに関連して、小型電動機(モーター)などの自動車関連機器の生産も盛んであり、全国に向けて供給されています。さらに、物理研究や医療現場などに不可欠な光電子増倍管、光半導体も当県で生産されています。

当業界も、アジア新興国の経済発展が本格化した1990年代後半以降、現地生産を押し進めてきました。現在、当県は国内向けの高機能のエアコンや冷蔵庫などの開発・生産拠点と位置付けられています。

(4) 化学

静岡県には、医薬品、化粧品、化学繊維などの生産拠点や研究・開発拠点が多数集積しており、化学工業の製造品出荷額等は、県内では、輸送用機械器具、電気機械器具に次いで3番目に高いウェイトを占めています。品目別には、製版用感光材料(全国シェア53.6%)、触媒(同49.6%)などの出荷額は全国トップであるほか、自動車産業の集積

地であることから、自動車用のプラスチック製品などのシェアも高く、化学工業全体では全国第5位の生産地となっています。

(5) はん用・生産用・業務用機械

多様な産業集積を背景に、県内には多数の機械メーカーが立地しています。そのなかでも、工作機械と木工機械は、ともに古い歴史があり、本県のリーディング産業である自動車や楽器など完成品メーカーの発展を支えています。

(6) 楽器

楽器生産・販売量が世界トップクラスの企業を中心に、県西部には中小協力メーカーが集積しており、ピアノの出荷は全国で静岡県だけです。

(7) 紙・パルプ

富士市周辺には、紙・パルプ業界における国内トップクラスの企業グループの生産拠点を始め、白板紙や衛生用紙などを生産する多くの中小メーカーが集積しており、静岡県は全国有数の紙産地となっています。このため、パルプ・紙・紙加工品の製造品出荷額等は全国第1位を誇っています。

最近では、製紙産業の技術を生かし、植物繊維を利用したセルロースナノファイバー産業の創出に向けた取り組みがみられるなど、新たな素材産業への発展が期待されます。

(8) 缶詰・飲料

県内の缶詰業は、焼津港や清水港で水揚げされるまぐろやかつお、および後背地の丘陵地帯で収穫される温州みかんなどを原料に、その立地優位性を活かした地場産業として発展を遂げてきました。当県の缶詰の生産量をみると、まぐろ類缶詰、かつお類缶詰ともに、国内生産のほぼ全量を占めており、最近では、高付加価値部位を原料としたプレミアム商品を手掛けています。

また、飲料業では、当県の豊富な水資源を活かし、ソフト・アルコール飲料のODM・OEM拠点が集積しています。

(9) 伝統・地場産業

県内神社・仏閣の造営・修造に際し培われた「塗物」の技術と、南アルプスの豊富な森林資源を活かし、仏壇、家具、雛具、下駄などの産業が発達しました。また、県西部には、短繊維綿織物や別珍・コール天などの織物産地が形成されてきました。こうした伝統産業は、生産量が趨勢的に減少しており、今後は、地域ブランドの強化やインバウンドへの伝統産業のPR、技術の他分野への応用など、新たな市場の開拓が課題となっています。

■農林水産業の特色

(1) 農業

全国有数の長い日照時間を活かした農業が盛んです。古くから傾斜地や台地を利用して茶やみかんの産地が形成されているほか、平野部では野菜や花の生産が盛んに行われています。茶（生葉、荒茶）、温室メロン、ガーベラなどの収穫量等が全国第1位となっています。

また、最近では、ICTの活用や農地集約などによって、生産性の高い先進的な農業を目指す取り組みが広がっています。

(2) 林業

天竜川・大井川の上流に豊富な森林資源があり、それらを伐採し川を利用して運搬できたことから、林業は古くから両流域で発達してきました。江戸時代には駿府城の造営もあって、育成林業の手法を確立した先進的な林業地帯として発展し、遠州林業は全国的に名の知られた存在となりました。戦後、外国材の流入によって、当県産木材のシェアは次第に低下してきましたが、現在でも天竜地域のスギや富士地域のヒノキに代表されるように、県内各地で特色ある事業が行われています。

また、最近では、CLT（直交集成板）を新たな素材として活用する動きが広がるなど、今後の発展の可能性が期待されます。

(3) 水産業

近海に資源豊かな漁場を抱え、桜えびやしらすなどの沿岸漁業、まぐろやかつおを中心とした沖合・遠洋漁業、うなぎやスッポン、にじますなどの養殖業など様々な水産関連産業が発達しており、きはだまぐろ、かつお、桜えびなどが漁獲量で全国第1位となっています。駿河湾は最深部が約2,500メートルと日本一深い湾であることから、多様な魚類が豊富に生息しており、桜えびは国内では駿河湾でしか獲れない貴重な特産品となっています。

最近では、水産業の持続可能性を担保するための海洋資源の保護や、鮮度の高い水産物のグローバルな販路開拓のために必要な冷凍施設等の整備などが課題となっています。

■観光産業の特色

当県は、豊富な観光資源を有しているほか、旅館・ホテル営業施設数が東京都、北海道に次いで全国第3位にあるなど充実した観光インフラを有しており、観光産業が当地経済に与える波及効果が大きいことが特徴です。

行政機関や関連事業者では、国内外の観光客獲得に向けて、当地観光のコンテンツ・PR強化、二次交通の整備、キャッシュレス決済の推進など、地域一体となって様々な取り組みが進められています。

(1) 伊豆

多数の温泉が湧く全国有数の観光地です。首都圏からの交通が便利な東伊豆、太陽豊かな南伊豆、緑豊かな西伊豆、落ち着いた中伊豆と、地域毎の特色も様々です。2015年7月に「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の1つとして、韮山反射炉（伊豆の国市）が世界文化遺産に登録されました。また、伊豆半島は本州で唯一、フィリピン海プレートの上であり、地質上の見所が多いことから、2018年4月に「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されました。

(2) 富士山

山梨県境にあるわが国の最高峰で、海外も含めた多くの登山客、観光客で賑わっています。主な4つの登山ルートのうち3つが静岡県からのものであり、白糸の滝や朝霧高原など、関連する観光地も多数あります。富士山本宮浅間大社など、信仰の対象にもなっており、2013年6月には「信仰の対象と芸術の源泉」として、富士山が世界文化遺産に登録されました。

(3) 静岡、清水

静岡市内には、駿府城公園や静岡浅間神社など、徳川家康公にゆかりのある旧跡が数多く残されています。また、日本平は富士山の眺望で有名な景勝地で、その名はヤマトタケルに因んでいます。日本平からロープウェイで渡る久能山東照宮（社殿は国宝）には徳川家康公が祀られており、急な石段を降りた駿河湾沿いでは石垣いちごの栽培が盛んです。その近く、三保の松原は、海岸線に美しい松が並び、世界文化遺産である富士山の構成資産にも登録されました。このほか、清水港は海外からクルーズ船が来航します。

(4) 浜名湖

浜松を中心とする「遠江国^{とおとうみのくに}」の語源は、浜名湖が京都からみて近江（琵琶湖）より遠くにある大きな湖であるところからきています。浜名湖は汽水湖で魚種が多く、うなぎやスッポンなどの養殖が盛んなほか、釣りやプレジャーボートなど様々なマリレジャーを楽しむ人々が集ってきます。近くには温泉（舘山寺温泉など）やみかんの特産地（三ヶ日）もあります。

(5) その他

各地に残る旧東海道の石畳や街並みのウォーキング、深い緑に覆われた南アルプスへの登山、天竜川、大井川、富士川などでの川遊び、駿河湾での海水浴など、様々な観光資源

が県全土に亘って広がっています。安倍川上流の梅ヶ島温泉、大井川中流の寸又峡温泉など、伊豆以外にも多くの温泉があります。

■金融面の特徴

当県（2022年12月末現在）には、地銀3行、第二地銀1行、信金9金庫、信組1組合、労金、県信連、県信漁連、農協10組合が本拠を構えています。また、県外からは大手行、第二地銀、信託、信金、信組、政府系・系統中央機関などが進出しています。とりわけ、地元金融機関は、当県経済の懐の深さを背景に総じて規模が大きく、県内9信金は全て本行の当座預金取引先となっています。なお、同一県内に複数の地銀が存在するケースは珍しく、当県（3行）は福岡県（4行）に次いで全国で2番目に多い水準となっています。

県内の預金・貸出シェア（2022年3月末<日銀静岡支店・当座預金取引先の県内所在店舗ベース>）をみると、地銀・第二地銀が約5～6割と高く、次いで信金が約3割前後となっています。

▽業態別の預金・貸出構造（2022年3月末）

	実質預金		貸出		預貸率 (%)
	残高 (億円)	構成比 (%)	残高 (億円)	構成比 (%)	
都銀等	27,898	10.8	15,624	11.0	56.0
地銀等	138,969	53.7	84,704	59.5	61.0
信金	91,992	35.5	41,919	29.5	45.6
合計	258,860	100.0	142,249	100.0	55.0

資料出所：日本銀行静岡支店

<定義>実質預金＝表面預金（譲渡性預金は含まない）－小切手・手形

「都銀等」は都銀、信託の合計

「地銀等」は地銀、第二地銀の合計

以 上